

発達障害の重症度診断装置の研究開発

発達障害の客観的評価尺度は未確立

注意欠陥 / 多動性障害 (ADHD) の
中核症状は、「**実行機能**」の低下である

有病率: ADHDは、小学生の5%に存在!

そこで..

ADHD児の実行機能重症度診断装置の開発へ

---本装置の将来性---

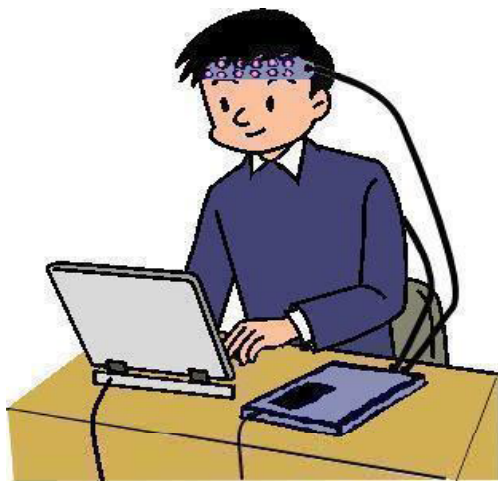
他の障害の重症度診断

- ・ASD(自閉症スペクトラム)
- ・てんかん 他

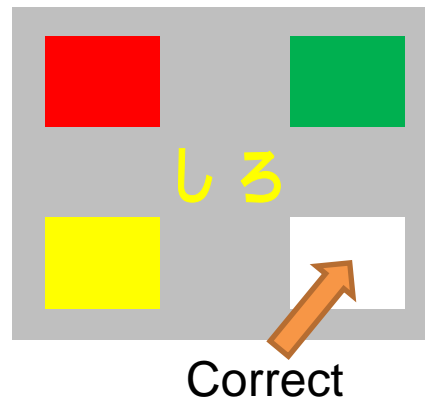
高齢者の認知機能検査

薬剤や行動療法の効果判定

の可能性あり



【行動指標+生理指標による**簡便かつ客観的**な検査方法の確立に成功】

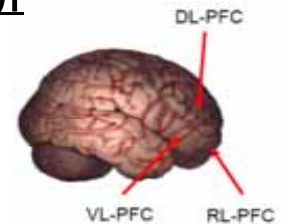


【逆ストループ課題(色干渉)システム】



データの記録・解析

- ・反応時間
- ・正当数
- ・回答数
- ・座標
- ・NIRS活動(DLPFC)とリンク



代表的な特許例 1

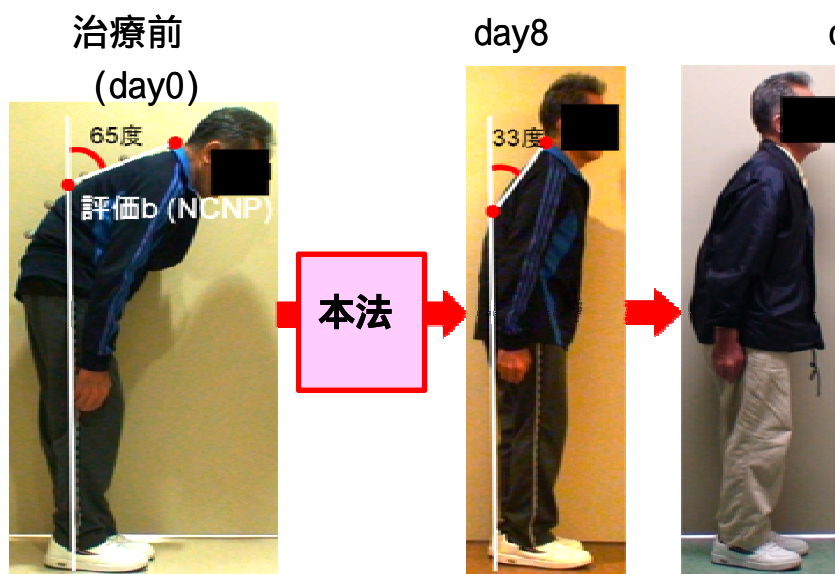
パーキンソン病の腰曲りに対する外腹斜筋の治療

パーキンソン病治療では、さまざまなドパミン系の治療薬の開発により、運動症状は大きく改善した。

現在は、ドパミン刺激に反応しない症状(DA 不応症状)が大きな問題になっている。

DA不応症状の代表に腰曲り(姿勢異常)がある。

- 1) 腰曲りの分類、2) 責任筋の同定、
- 3) 治療法(外腹斜筋へのリドカイン投与)の開発、
- 4) 5日間連続投与により3か月以上の長期効果の確認



本法の確立により、関連する他の型の腰曲りの治療法開発につながっている。臨床発の治療法開発。

In vitro, in vivoの実験からは開発しえず、レベルの高い臨床の場で初めて可能になる治療法開発である。

代表的な特許例2

特許登録番号第4761364号(平成23年6月17日登録)

「眠気予防情報提示装置、眠気予防情報提示システム、プログラムおよび記憶媒体」

NCNP

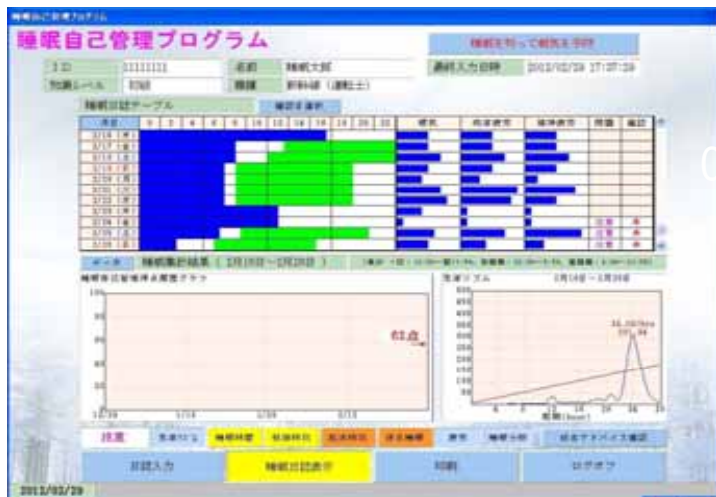
共同出願、販売契約締結

当センター初の「実用化」

JR東海

上記特許を元に、JR東海が「睡眠自己管理プログラム」を開発
長距離ドライバー等を有する旅客会社等に需要がある。

知的財産管理のアウトカムとして今後
に期待



政策的医療の提供（医療観察法病棟）

- ・医療観察法対象者への医療の提供（我が国最大 68床）
- ・我が国唯一の身体合併症医療対応
- ・全国26指定入院医療機関の牽引役
- ・裁判所、検察庁、保護観察所との強力な連携

多職種チーム医療

- ・運営会議（毎月）
- ・担当多職種チーム会議（毎週）

教育・研修機能

- ・研修・見学受け入れ(234名)
- ・新規設置施設支援
- ・各種人材養成活動

身体合併症医療

- ・院内連携モデル
（総合内科・外科）
- ・多施設医療連携モデル
（身体科高度専門医療）

地域連携・退院促進

- ・地域連携会議(CPA)
- ・外出外泊の実施
- ・通院医療処遇の開始
（平成23年10月より）

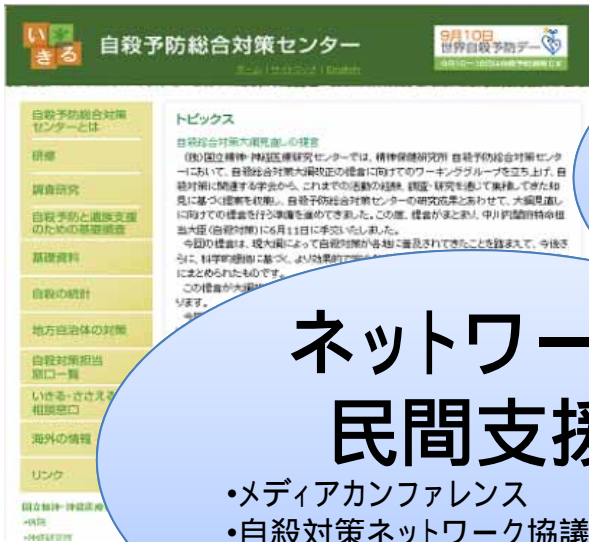
政策提言・研究

- 厚生労働科学研究班 研究活動
（全国入院対象者、全数調査）



自殺予防総合対策センター

政府の総合的な対策を支援



情報発信

- ・ウェブサイト「いきる」
(アクセス月あたり5万件以上)
- ・地域における自殺対策の手引きを刊行
- ・ブックレットシリーズ第9号を刊行
- ・アルコール普及啓発資材
「のめば、のまれる」を配布



調査研究

- ・心理学的剖検
- ・地域における自死遺族支援の促進
- ・一般診療科と精神科の連携によるうつ病患者の発見と支援
- ・自殺対策取組状況調査、振り返り調査
- ・東日本大震災被災地における自殺予防対策の検討

ネットワーク 民間支援

- ・メディアカンファレンス
- ・自殺対策ネットワーク協議会
- ・自殺対策研究協議会
(WHO専門家の日本訪問)



研修

- ・心理職自殺予防研修
- ・自殺総合対策企画研修
- ・精神科医療従事者自殺予防研修
- ・自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修
- ・NCNP内自殺予防研修

政策提言

- ・自殺対策の関連学会等と連携して、自殺総合対策大綱の見直しに向けての提言を作成

【平成23年度の重点課題への取組】

- 我が国の自殺対策の基本的な指針である「自殺総合対策大綱」(以下、大綱)は平成24年度に見直しが行われるため、自殺対策関連学会と連携して大綱見直しに向けての提言第一次案を策定
- 東日本大震災の被災者支援・復興支援には、社会的取組と精神保健の連携という自殺対策の枠組みが有効である可能性があることから、それを事例的、定点観測を通じて、検証・発信を実施
- 自殺対策におけるハイリスクグループアプローチの重要性を踏まえて地方自治体との連携研究等を推進

東日本大震災への対応

災害時こころの情報支援センター



- ・東日本大震災被災者に対する継続的な対応
- ・今後の災害に備えた体制づくりのための研修・調査を実施



情報システムの設計

- ・被災地側と派遣側の情報を蓄積し、被災地のニーズに見合った支援の在り方を共有する

海外研究者との連携作り

- ・メンタルヘルス体制や今後の共同研究体制について議論

HP作成

- ・災害時の対応、対策のための情報提供
- ・動画作成

データ収集・分析

- ・被災地への派遣実績の比較
- ・こころのケアチームの報告を収集・分析
- ・こころのケア活動に係る意見交換会
- ・被災県との情報交換・技術的支援

こころのケアセンターとの連携

- ・災害時の情報収集・提供体制の在り方について議論
- ・こころの支援活動に対する技術的支援

被災地への医師等派遣実績

平成23年4月11日～平成23年7月1日 福島県いわき市 延べ45名

平成24年2月13日～平成24年3月28日 福島県南相馬市 延べ6名

こころのケアチームとしての派遣は除く

メディア カンファレンス



【アンケート結果(60件中)】

テーマ:たいへんよい(70.0%)、よい(28.3%)

内容:たいへんよい(60.0%)、よい(36.7%)

理解しやすさ:たいへんよい(56.7%)、よい(38.3%)

【感想】

・様々なデータに基づいた説明で非常にわかりやすかった。

・病気に対する基本的な知識を持てる、こうしたセミナーはとても貴重です。

- (1) 幅広い層を対象としたメディアカンファレンスの定期開催(17~46人参加)
- (2) メディアの質問に中立的な立場から情報を提供し、より深く確かな報道を促進
- (3) メディアの関心やニーズを把握するためのアンケート調査を実施
双方向的意見交換の場

○ 第1回(4月27日)

「災害後の心のケアと回復力」

○ 第2回(7月25日)

「アルコール関連問題」

○ 第3回(11月24日)

「メディアの報道と受け手の認知的成熟度、そしてメンタルヘルスの問題」

○ 第4回(2月24日)

「統合失調症の再発予防」

○ 秋田メディアカンファレンス(12月2日)

「自殺予防について」

効率的な業務運営体制

頁数は、評価シートでの記載ページを示しています。

ガバナンスの強化等を目指した取組

企画戦略室長を中心とした経営改善の取組 [93、101頁]

経営安定化プランの策定、提案窓口の運用 等

実地内部監査の実施 [93、110頁]

監事と協働して旅費支給等の管理や知財管理等の監査を実施

事務職員研修の実施、標準的業務フローの作成・配布 等 [91頁]

個々人のスキルアップや組織横断的な識見の醸成、適正な会計業務の遂行

効率的な業務運営体制の構築

特命事項を担う副院長の配置を決定 [90頁]

強化すべき臨床研究の推進・経営改善及び教育研修・情報発信を担当する特命副院長

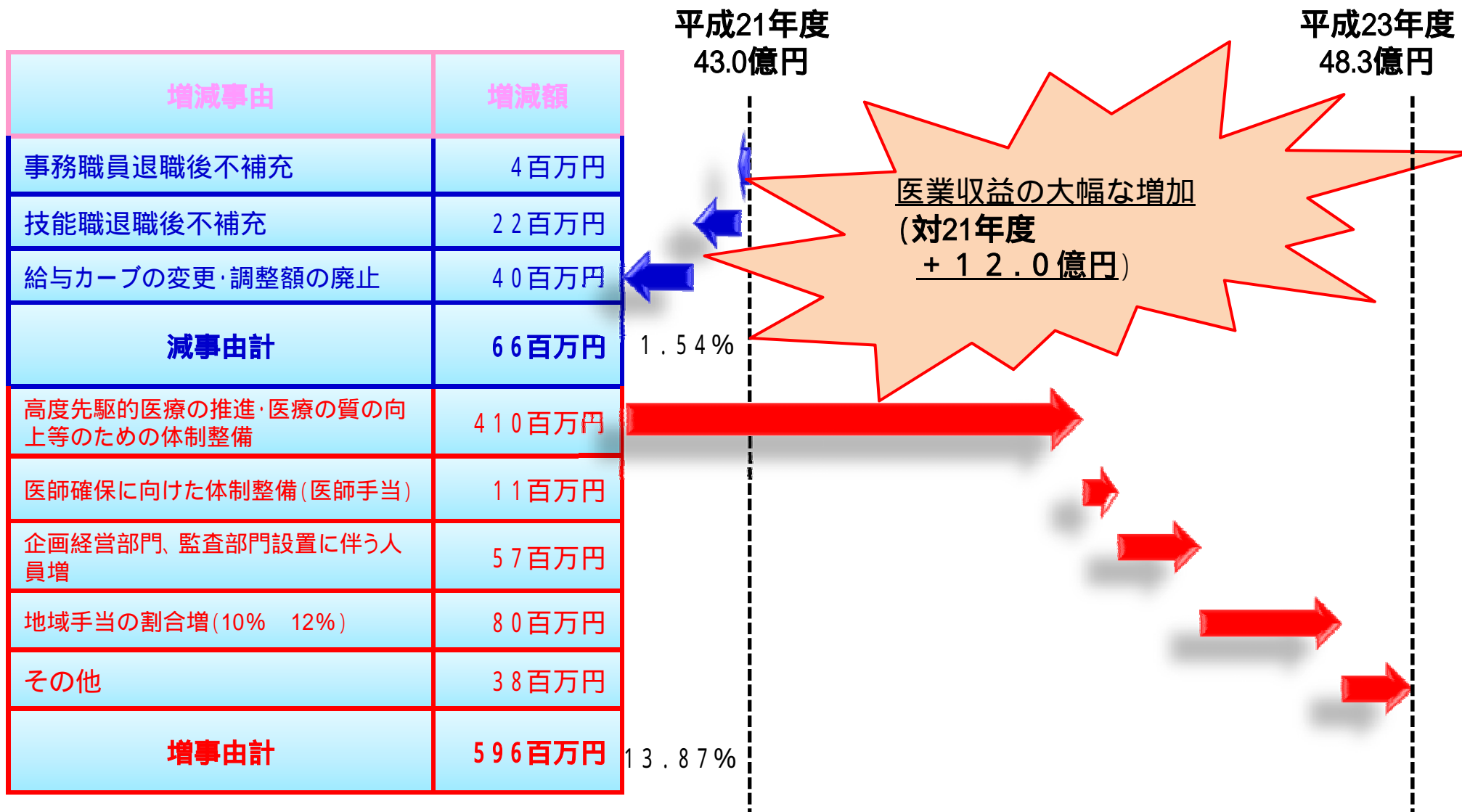
研究所の今後のあり方に関する検討会の立ち上げ [92頁]

外部有識者を迎え、神経研究所及び精神保健研究所の効率的・効果的な組織再編等を検討

事務部門組織の見直し [91頁]

責任の明確化、効率的な業務体制とするため調達部門等の配置換えを実施

総人件費改革の取組 [94頁]

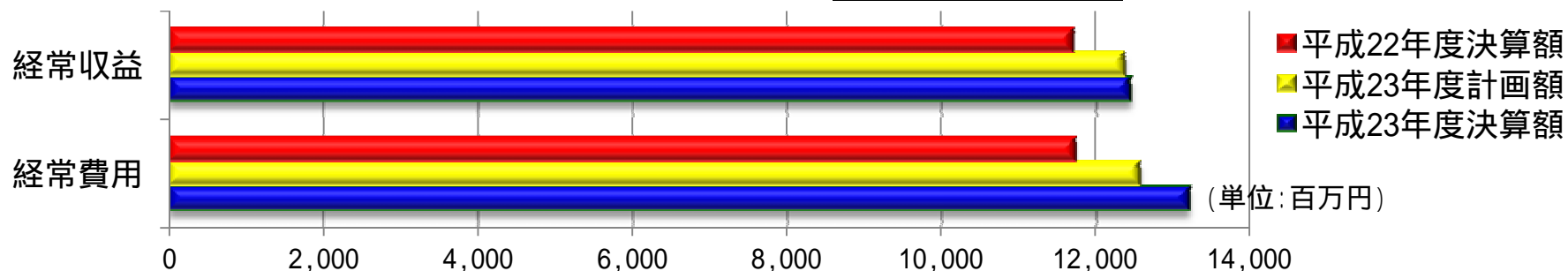


効率化・収支改善、電子化推進

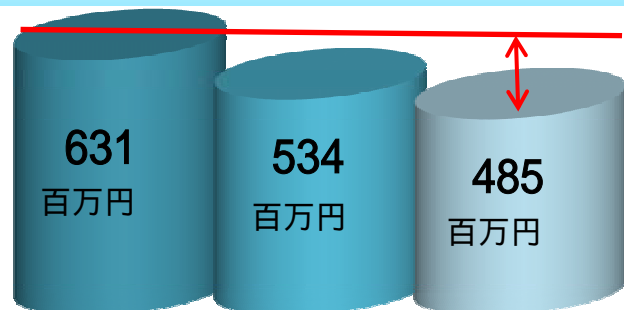
頁数は、評価シートでの記載ページを示しています。

平成23年度収支実績 [96頁]

項目	22年度決算額 (A)	23年度計画額 (B)	23年度決算額 (C)	対前年度 (C) - (A)	対計画 (C) - (B)
経常収益(百万円)	11,705	12,350	12,436	731	86
経常費用(百万円)	11,731	12,552	13,201	1,470	649
経常収支(百万円)	26	202	765	739	563
経常収支率(%)	99.8	98.4	94.2	5.6	4.2

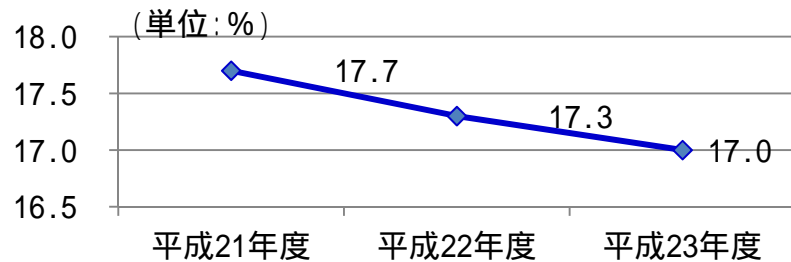


一般管理費の縮減 [98頁]



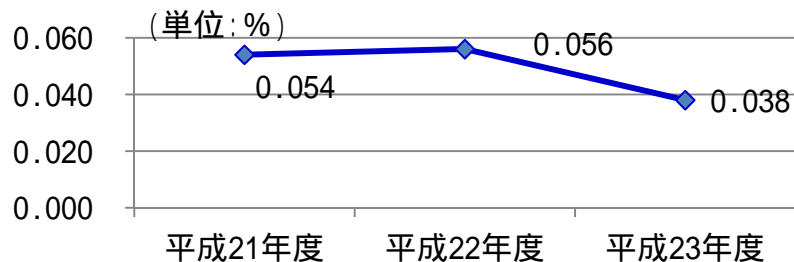
対21年度差引 146百万円
23.1%減

材料費の縮減 [97、98頁]



共同入札、適正な在庫管理等の取組により、対21年度の材料費率を 0.7% とした。
39,265千円の縮減

医業未収金対策 [99、100頁]



平成21年度の0.054%から0.016%縮減

- ・発生防止策
クレジットカード会社の拡張、限度額認定の利用促進 等
- ・回収促進
診療部門との情報共有、多職種連携、督促手順に則った督促業務の遂行 等

収入増への主な取組 [100～102頁]

- ・経営安定化プランの策定
- ・新たな施設基準の取得・検証
 - 一般病棟7:1 (+61百万円)等の取得
 - 精神病棟10:1取得に向けた取組 等
- ・適正な診療報酬事務の推進
病棟別勉強会の実施、点検システム導入 等

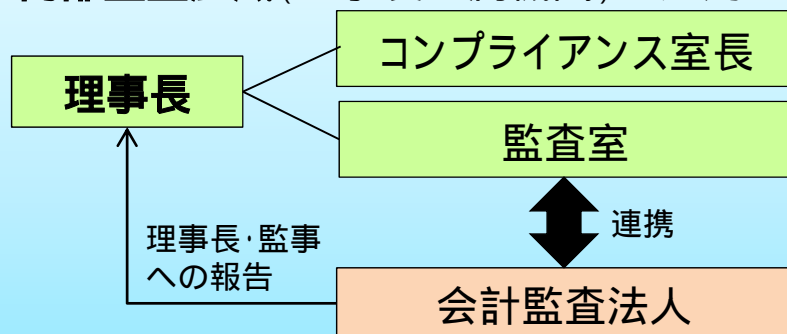
電子化の推進 [103、104頁]

- ・IT化の推進
研究業績管理システムの構築、WEB研修受付システムの運用 等
- ・電子カルテの活用による業務の効率化を推進
- ・財務会計システム、医事会計システム等の活用
月次決算の実施(理事会等に報告)

内部統制の適切な構築

頁数は、評価シートでの記載ページを示しています。

内部監査組織(理事長直属機関)の運用 [110頁]



実地監査の実施

- ・旅費支給等の管理
- ・公的研究費、知的財産(特許)の維持管理
- ・新設された組織に係る固定資産管理
- ・債権管理、診療報酬管理
- ・個人情報保護、給与支給業務、任用・サービスの状況
- ・年度計画フォローアップ表の作成状況
- ・業者債権債務の確認

契約審査委員会

構成: 直接契約業務に関与していない職員及び外部有識者
 審査: 仕様及び契約の公平性、競争性、透明性等の確保
 契約の適切性等についての事前審査

適正な契約業務 [111頁]

原則: 一般競争入札
 公表: 契約情報のHP上での公開
 血液製剤等の調達等、法令等で契約の相手方が特定されるものや
 複数年リース期間中の随意契約によるもの等を除き、順次、競争入
 札等へ移行

契約監視委員会 [111頁]

- ・平成23年度末までに締結した契約についての点検を実施
- | | |
|-----------------|-----|
| 競争性のない随意契約 | 6件 |
| 一者応札・一者応募となった契約 | 64件 |
| 落札率100%案件 | 24件 |

事前
Check

事後
Check

内部統制に係る各種取組 [112頁]

- ・業務の有効性・効率性
 - 業務の効率性等を考慮した部門配置
 - 年度計画の四半期毎の進捗管理
- ・法令等の遵守
 - 新規採用職員等の研修資料及び標準的業務フローの作成
 - 実地監査及び書面監査の実施
- ・資産保全、財務報告等の信頼性
 - 各委員会等による審議・審査
 - 監事監査、内部監査及び外部監査の実施

22年度の指摘を踏まえ改善した事項

- 長期間の公告期間の確保
- 参加資格要件の見直し
- 契約締結状況の四半期毎検証結果等を契約審査委員会へ報告
- 随意契約事由別区分表の作成 等

予算・収支・資金計画等、短期借入金、重要財産の処分等の計画、剰余金の使途

頁数は、評価シートでの記載ページを示しています。

寄附及び受託研究等の受入 [116頁]

(単位:千円)

項目	平成22年度	平成23年度
寄附金	5,188	26,000
受託研究	48,689	40,450
治験	252,586	161,184
共同研究	11,410	9,600
競争的研究資金	2,255,471	2,103,908
計	2,573,345	2,341,142

・平成22年度から減少しているものの、引き続き、積極的な申請等を行い、平成23年度においては、**2,341百万円**の外部資金を獲得
・民間企業等からの寄附研究や受託・共同研究を有効に活用し、研究の進展及び充実に資することを目的とした寄附研究部門の設置に向けての準備を実施

短期借入金、重要財産の処分等の計画 [118、119頁]

なし

平成23年度の財務状況等 [117、120頁]

貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
資産	44,296	負債	7,573
流動資産	3,440	流動負債	2,649
固定資産	40,856	固定負債	4,924
		純資産の部	金額
		純資産	36,723
資産合計	44,296	負債純資産合計	44,296

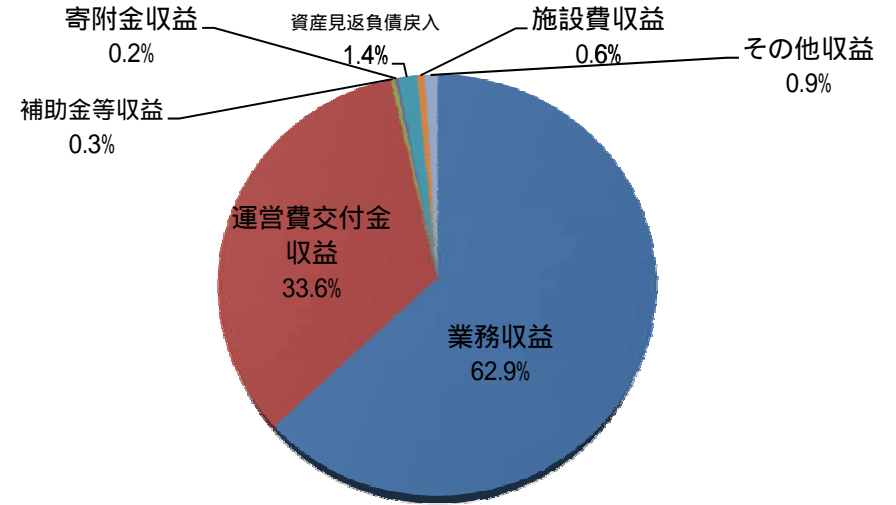
損益計算書

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
経常費用	13,201	経常収益	12,436
人件費	6,917	業務収益	7,819
材料費	1,510	運営費交付金収益	4,184
委託費	1,694	補助金等収益	41
減価償却費	1,175	寄附金収益	23
支払利息	43	資産見返負債戻入	179
その他経費	1,863	施設費収益	75
		その他収益	115
臨時損失	246	臨時利益	2
		当期純利益	1,010

経常収支率	94.2%	総収支率	92.5%
-------	-------	------	-------

NCNPの収益の内訳(平成23年度実績)



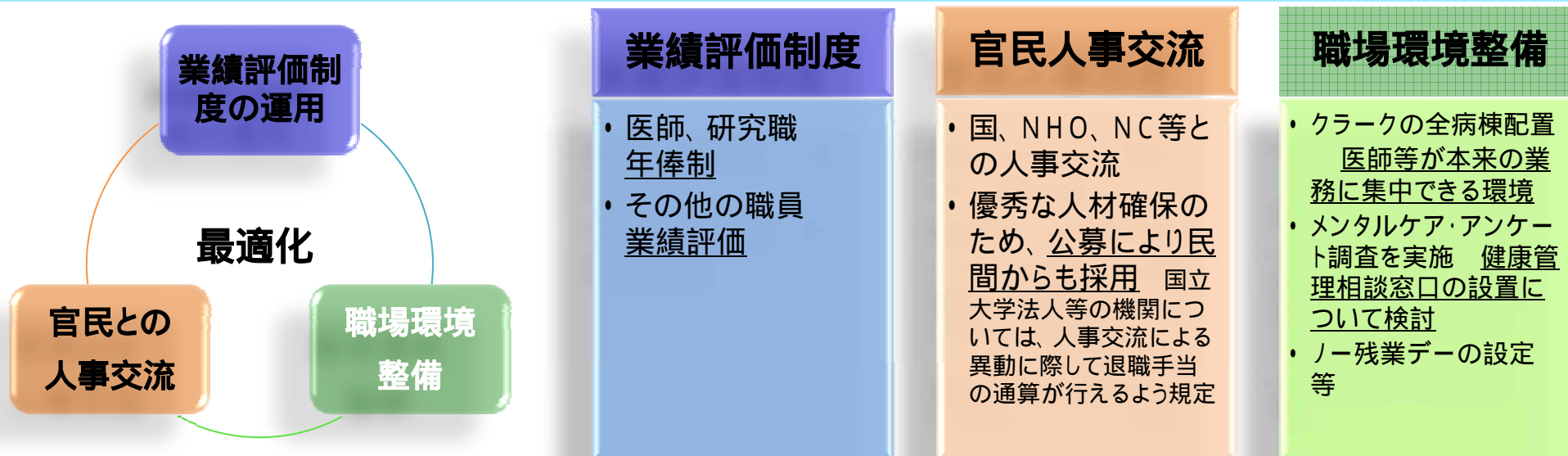
運営費交付金収益の内訳(41.8億円、経常収益の33.6%)

研究基盤経費	22.8億円
臨床研究基盤経費	3.2億円
精神・神経医療研究開発費	7.6億円
神経難病患者在宅医療支援経費	0.0億円
指導医・レジデント・修練医経費	4.4億円
教育研修経費	0.1億円
発達障害研修経費	0.1億円
自殺予防総合対策センター経費	0.7億円
政策提言経費	0.0億円
退職手当	2.8億円

人事、その他の事項

頁数は、評価シートでの記載ページを示しています。

人事システムの最適化 [123、124頁]



良質な医療の効率的提供のための取組 [124、125頁]

- | | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 医師確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 上級専門職、専門職の設置 (<u>精神科分野の治験・臨床研究の総括担当及びスーパー特区事業治験担当</u>を採用) |
| 看護師確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用試験の柔軟な対応 ・ 当人のキャリアプランに配慮した配置換え、<u>看護アピールコンテスト</u>の開催 |
| 療養介助職 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者QOL向上のため創設した療養介助職13名の採用を確保 (平成24年4月) ・ 介護実践能力の向上のため集合研修 (3回) を実施 |
| 医療技術職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ PT及び薬剤師ともに増員決定時の計画以上の実績を達成し、<u>医療面・経営面の両面で良好な結果</u> |



アクションプランの実行 [129頁]

年度計画策定

- 企画経営部において、取りまとめ
- 部、室単位で意見集約

実行

- ミッション、年度計画等に則った業務の遂行

進捗管理

- 四半期毎に項目毎の進捗を確認
- 理事長へ報告

分かりやすい国民目線の情報開示 [129頁]

来訪者が目的の情報により早くたどり着けるよう「一般の方」、「病院をご利用の方」等、来訪者の属性別の入口を設けたほか、一部のパンフレットで視覚障がいを持つ方が利用しやすいように加工したのも掲載するなど、WEBにおけるバリアフリーの取組に着手

